

教育とアートで 人が輝く多久市へ



うし まる かず と

2018年新春1月号の特集では、多久町在住で芸術家としても活躍されている牛丸和人さんをゲストにお迎えし、2017年に新しくできた「えのぐアートギャラリー」（北多久町）で多久市の教育やアートとまちづくり、そして今年の展望などを横尾市長と語り合っていました。

市長…新年、明けましておめでとうございます。今年は戌年ですから、ワンダフルな年にできたらと思っています。

牛丸…明けましておめでとうございます。よろしく願います。

ICT※1教育は未来を生む

牛丸…私は今、牛津高校で校長を務めています。高校勤務になったことで、より小・中学校のことが気になるようになりました。多久市は市長のリードで、小中一貫教育を経て、義務教育学校に大きくシフトしましたね。

市長…歴代の教育長、教育委員のみなさん、先生やPTAのみなさんが密に連携し、コミュニケーションがとれていたお陰でいい形に繋がりました。

牛丸…多久の今後のICT教育のビジョンを教えてください。

市長…21世紀スキルも念頭におきながら教科などの情報を活用する一方で、先生の働き方革命にも取り組みます。先生は本務に加え、アンケートや調べ物が多いと聞きます。それをICTによりグッと減らす取り組みです。また、ペインティング機能を生かして、画面上で描いたものを作品化してもいい。タブレットアートであれば、支援を必要とするお子さんや大人も簡単にできるでしょう。

ICTを教育だけでなく、アートや音楽など、色んな活動に使って可能性を広げていきたいですね。

牛丸…おっしゃる通りです。今、県立高校ではタブレットを使っていますが、指導する側の発想の転換が必要です。

※1…ICT (Information and Communication Technology) 「情報通信技術」
インターネットやタブレットなど情報通信技術 (ICT) を教育で活用すること